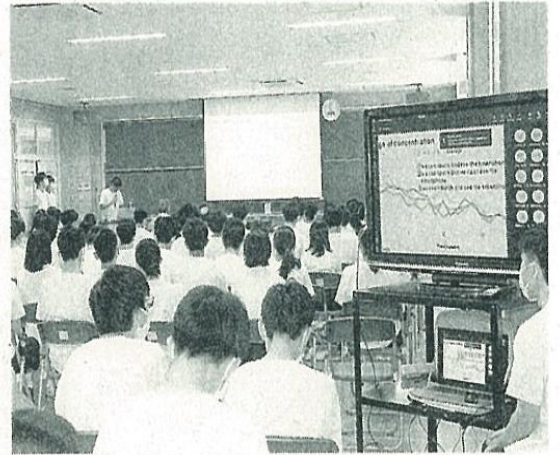


2022年(令和4年)8月5日(金曜日)

(2)

# 英語で研究活動成果発表 酒田東高「スマホと集中力」など4テーマで



## 探究科3年生流ちょうに分かりやすく

酒田市の酒田東高校(大山横一校長、生徒4809人)で2日、課題研究を英語で紹介する「Presentation in English」が同校で行われ、探究科3年生が流ちょうな英語で研究活動の成果を発表した。写真。

同校では、2018年度「探究科」を開設。課題研究は、1年次後期に自らが2年次に取り組み研究テーマを設定し、数人のグループに分かれて学びを深めて

いる。同校は昨年度から5カ年、将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う高校「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を文部科学省から受けている。

探究科の3年生は今年3月、自らが調査・研究を進めてきた成果をポスターやステージで披露。「Presentation in English」は自分たちの研究を整理し、

改めて捉え直すとともに、英語でのプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を目的に行われた。

この日は探究科3年生80人が参加。英文でまとめ直した研究成果を27グループがポスターや対面形式で発表。視聴覚室で行われた対面発表では、山大農学部や東北公益文科大学の教員らと

同校探究科2年生らが見守る中、午前と午後2代表4グループずつが発表。午前中は▽ゾーンに入るスマートフォンと集中力の関係

―(原題= into the Zone - The relationship between Smartphones and Concentration)▽体温を記録するアプリケーション(同= Application to Record Body Temperature)▽独特な方言の表現(同= A unique dialectal expression)▽私たちの古里 中町(同= Our Home Nakamachi)の4テーマを

全て英語で紹介した。

このうち、スマートフォン

の位置で集中力の変化を調べたグループは、スマートフォンと自分との距離を「触れない、見ない」「触れているが見ない」「触れている」の3条件に分

け、被験者に現代文のテキストを受けてもらい脳波を測定。その結果「スマホに触れない見ないとした場合の勉強開始2分間の集中力は他の環境に比べ非常に高い

ことが確認できた」となると述べた。